



Phase1:排泄に関する技術開発の現況調査

■第1回

日時：2012年2月2日（木）13:00～15:30

場所：国立障害者リハビリテーションセンター研究所・福祉機器開発研究室

ヒアリング対象者：中山 剛 氏（国リハ研究所・障害工学研究部 室長）

《ヒアリング先に選定した経緯》

- ・国リハ研究所で自立支援局や病院と連携して実施している排泄支援に関する情報を収集したい

《ヒアリング概要》

- ・排泄動作に困難を抱える障害者の支援を目的とし、その問題の解決方法を検討している弊センター内の有志スタッフグループに話を聞いた。当事者ニーズということについては役に立つ話ができるかもしれない。

1. 排泄機器環境と自立支援の歴史

- ・産総研（AIST・産業技術総合研究所）・トイレ介助ロボット
- ・松下電器（排便を促す温水洗浄便座）
- ・日立製作所やフランスベッド等によるロボット+トイレ機器／電動車椅子とトイレ（高齢者対象）開発
- ・温水洗浄便座の研究開発・普及
 - 1960年代TOTOが視察に行き、温水洗浄便座を日本に普及させた
 - 国産の第一号はINAX
 - 起源は、スイスとアメリカ説がある（ウォシュレットはTOTOの製品名）
- ・各メーカーによる「電動車椅子+温水洗浄便座」の研究開発 ⇒ 実現に至っていない
- ・各メーカーによる「自動吸引式収尿器・集便器」の研究開発 ⇒ 一部商品化している
- ・便座高可変対応便座の研究開発
- ・TOTOの柔らか便座の開発・商品化

2. 国リハでの排泄問題に関する取り組み

- ・15年前調査（協力：東京頸髄損傷者連絡会協力）108名を対象としたアンケート調査（回収53通）
 - 調査内容：食事、排泄回数、排泄に要する時間 etc…（参考資料①）
- ・自走用車椅子で便器を使える車いすの適合が難しいことが多いので、評価用のモデル車椅子を開発中
 - 自走用車椅子は大きいものしか、なかなか市場にない
 - ⇒評価用のモデル車椅子を開発中 ⇒ そこから個人用をオーダーできるようにする
- ・入所者へニーズ調査の実施
 - 頸損・脊損30名程にニーズ調査を実施
 - ひとりひとりの排泄時間が長い→トイレの便座の数が足りない（参考資料②）
- ・兄弟センターである「別府重度障害者センター」「伊東重度障害者センター」との横の連携

温水洗浄便座を使って排便促進ができないかの調査を実施

3. 排泄機器の情報提供

- ・日本トイレ協会による「全国トイレシンポジウム」への参加
- ・残尿をチェックする機器は開発され商品化されている
- ・残便をチェックする機器は未だ未開発
- ・それぞれの重度センターで排泄に関連する用具や機器、改修などの情報提供のHPがある

4. その他の意見交換

- ・自立生活を送るのに当たって、排泄と移動についての問題が大きいが、技術者の中でもそのことに気づいていない人が多い。
- ・便器のように常に穴が開いている形状のものですぐに出せるようにしたい。そうすると付随して下着の問題、場所、どこですか、文化、習慣まで影響してくるだろう。排泄で技術開発はそうした絡み合っていることがわかっていないと難しい。
- ・排泄問題を研究するには医師の協力があれば有り難い

《参考資料》

- ①頸椎損傷者の排便管理－排便促進方法に焦点をあてて（日本健康教育学会誌 1996. Vol.6)
- ②脊損障害者の排便に関する調査報告（チーム便クリ）
- ③福祉介護機器 + 2009.5 vol.2 No.5 特集：自動吸引式収尿器・集便器の最新動向